

主任教授からのメッセージ

小児科は女性医師の多い診療科です。理由は様々ですが、子育て中のお母様の気持ちが同性として理解できることも大きいでしょう。またそういうお母様たちと日々接している同僚の男性医師にも女性医師を支援しようという雰囲気のあることが働きやすい職場環境を醸成しているのかもしれませんが。加えて関西医大小児科では診療や研究のあらゆる面で男性医師と同様のキャリア形成（専門医資格取得、学位取得、学会活動など）が可能です。それは当科では、女性医師に限らず、すべての教室員の先生の多様なニーズに合わせた「個別対応」をモットーにしているからです。それぞれの人生でそれぞれのキャリア形成の仕方がありますが、関西医大小児科なら、どんな制約の中での復職も支援します。

小児科への入局、復職をお考えの先生は是非、ご一報下さい。

○ 診療科の特徴

全国統計では小児科医に占める女性医師の割合は34%であり、全診療科で4位と女性医師が多い診療科です。現在当科にいる女性医師の割合は26%で、女性医師が働きやすい環境を整えています。働き方は人それぞれであり、様々なロールモデルとなる女性医師が活躍しています。本学は附属病院、総合医療センター、香里病院のほかにも様々な関連施設を有しています。そのため勤務内容も健診業務、予防接種、外来業務、1次から3次救急医療機関における病棟業務と多岐に渡ります。休職前の習熟度や個人の希望に応じて復職できるため、無理なく安心してキャリア形成を行うことができます。

○ 診療科で働く女性医師

附属病院・総合医療センター・香里病院それぞれ6名、1名、2名の女性医師が勤務しており、このうち子育て中の女性医師は5名です。その他、関連病院の常勤医や健診業務を主に行う非常勤医も多数所属しています。皆それぞれのライフスタイルに合わせた勤務形態を選択しています。

職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

育休終了数か月前に医局長と面談を行い、復帰後の勤務場所、勤務形態について相談します。勤務形態はフルタイム勤務、短時間勤務正職員制度を活用した短時間勤務、健診業務など希望に応じて決定します。復帰後すぐにフルタイム勤務が難しい場合は短時間勤務から復帰し、段階的に勤務形態を変更することも可能です。

○ 研修内容

	内容	指導期間	独立
超音波検査	腹部、心臓	2～12か月	1年以降
地域保健活動	健診、予防接種	なし	1か月以降
外来	一般外来、専門外来	2～6か月	7か月以降
病棟業務	一般病棟	1か月	2か月以降
	NICU病棟	2～12か月	1年以降

当科では上記のようなプログラムを設定しています。休職前の習熟度や専門医取得の有無により個々で異なります。

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

女性医師のキャリア形成は本人の価値観、将来のビジョン、家庭環境など様々な要素によってバリエーションがあり、多様な活躍の仕方があります。子供が小さいうちにはできるだけ仕事はセーブして過ごしたい、少しでも早く復帰してしっかり働きたいなど人によって希望も様々です。そして、実際に復帰しても子供を含めた家族の体調や周囲の環境によって状況は変化します。復帰して仕事と家庭の両立ができるのか、誰でも不安だと思いますが当科では臨機応変に相談に応じそれぞれに最適な勤務形態を選択することができます。是非一緒にキャリアアップをしながら頑張りましょう。



若手、女性医師が多く和気あいあいとした医局です



学会での打ち上げにて



月に1回の研究ミーティングにて。厳しくもいつも優しい金子教授

▶ 復帰した医師の声

体験談（YA先生）

専門医取得後、医師9年目の時に第1子を妊娠しました。附属病院の病棟勤務中であり、体調を考慮し初期から当直を免除してもらい産前4週まで勤務を続けることができました。息子が4か月の時に、フルタイムではなく短時間勤務正職員制度を利用し、週3-4日（主に半日勤務）の外来勤務に復帰しました。息子は附属病院の院内保育園、関連病院の一時保育施設、ベビーシッターに預けながら勤務しています。本学ではベビーシッター利用に際して補助があるので非常に助かっています。早めに復帰したため周囲からは心配もされましたが、短時間であっても医師の仕事が続けていることで感覚を維持できるため、今後フルタイムで復帰することへの不安が軽減できますし、生活にもめりはりがあり育児と仕事の両立を楽しむことができていると感じます。息子が様々な人に接することにより楽しそうに過ごしてくれているのも嬉しいです。

実際に子育てを経験して、より一層保護者の不安を親身に理解できるようになったと感じ、健診などの外来業務にもとてもやりがいを感じています。また、産後1年間の間にそれまで行っていた研究成果を論文化し、学位を取得することができました。家族や医局の先生方のサポートもあり無事に学位を取得することができ、今後の自信につながりました。病棟業務にはまだ復帰していませんが、学会発表や研究に携わる機会を頂けることで自身の成長や自信に繋がっており、そのような機会を与えてくれる教授や医局の先生方に感謝しています。

出産や子育てで職場を離れると「復職してもうまくやっていけるのか、迷惑ではないか、仕事を任されてもこなせるのか」など不安が強くなってしまいますが、周囲のサポートを受けながらまずは挑戦してみれば意外と今後のキャリアアップの道も開けてくるのではないかと思います。私もまだまだ試行錯誤中ですが、女性医師（だけでなく男性医師）にとって働きやすい職場になるよう微力ながら頑張っていきたいと思いますので、興味のある方は是非一度お声かけください。



研究成果を学会で発表、賞を頂きました

復帰した医師の声

体験談（CA 先生）

私は入局3年目に出産し、1年間の育休を経て復職しました。産後の復帰時期については希望を尊重してくださったので、わが子の成長を1年間たっぷりと傍で見守り、仕事に復帰することができました。小児科という科の特性上、この経験は現在の仕事に大いに役立っています。復帰後は当直のない病院でフルタイム勤務をさせていただいていますが、1年間のブランクを経ての復帰に怯える私を優しくサポートしていただき、何でも相談できる環境で仕事をさせていただいていることに感謝しています。また、子供の発熱時など、急なお休みにもご理解いただき、とても恵まれた職場だと感じます。現在、子育て中のママさんドクターも増えていますので、働き方に悩む女性医師の皆様、是非一度ご相談ください。



保護者の不安をしっかりと傾聴。子供達の笑顔に日々元気をもらいます

● 講座ホームページ 関西医科大学 小児科学講座 <https://www3.kmu.ac.jp/pediat/>